

全体での課題共有及び 助言における補足資料

令和5年度 第1回 学校司書連絡会（宮古島市）

2023年9月6日

琉球大学教育学部 教授 望月道浩

1

本資料について

- 本資料は、司書資格科目「児童サービス論」の内容から、当日の課題共有に関連して、一部抜粋したものをそのまま提示するものです。

2

1. 発達と発達段階

■発達段階とは？

□発達の過程をわかりやすく示したもの。

□発達段階については、多くの心理学者によって異なる説が提唱されている。

なかでも、以下の心理学者による説がよく知られる。

➢フロイト (Freud, Sigmund 1856-1991)

➢ピアジェ (Piaget, Jean 1896-1980)

➢ハヴィガースト (Havighurst, Robert James 1900-1991)

➢エリクソン (Erikson, Erik Homburger 1902-1994)

発達段階ごとに特有のいくつかの壁（これを発達課題という）が存在しており、この壁を乗り越えながら人は発達していくととらえている点はいずれの説でもほぼ共通している。

3

1. 発達と発達段階

■ハヴィガーストによる発達段階

□人の発達を6つの段階に分けてとらえている。

□それぞれに乗り越えるべき発達課題を提示している。

➢児童サービスにかかわる「幼児期」「児童期」「青年期」の主な発達課題とは？

幼児期（～6歳）



児童期（6～12歳）



青年期（12～18歳）



壮年期（成人初期）（18～30歳）



中年期（30～55歳）



老年期（55歳～）

4

ハヴィガーストによる発達段階

児童サービスにかかわる「幼児期」「児童期」「青年期」の主な発達課題とは？

幼児期（～6歳）



- 話すことの学習
- 社会や事物についての単純な概念を形成すること
- 善悪を区別することの学習と良心を発達させること

児童期（6～12歳）



- 読み・書き・計算の基礎的能力を発達させること
- 日常生活に必要な概念を発達させること
- 良心・道徳性・価値判断の尺度を発達させること
- 社会の諸機関や諸集団に対する社会的態度を発達させること

青年期（12～18歳）

- 職業を選択し準備すること
- 市民としての必要な知識と態度を発達させること
- 行動の指針としての価値や倫理の体系を学ぶこと

5

ハヴィガーストによる発達段階

壮年期（成人初期）（18～30歳）



- 配偶者の選択、結婚した相手との生活の学習
- 子育てをすること、家庭の管理をすること
- 職業に就くこと、市民的責任を負うこと、自己に適した社会集団を選択すること

中年期（30～55歳）



- 独立した大人としての市民的社会的責任の達成
- 経済的水準の確保と維持、十代の子どもの成長への援助
- 余暇活動の充実
- 中年期の生理的变化を理解し、適応すること

老年期（55歳～）

- 肉体的な強さと健康の衰退に適応すること
- 引退と収入減少への適応、配偶者の死への適応
- 自己と同年代の高齢者と明るい親密な関係の確立

6

ハヴィガーストによる発達段階

児童サービスにかかわる「幼児期」「児童期」「青年期」の主な発達課題とは？

- ハヴィガーストのあげた発達課題をみると、その課題を乗り越えるために読書や図書館の児童サービスが寄与しうる部分の小さくないことが想像できる。

「読むことの学習によって、新しい世界がだんだん開けてくる」(ハヴィガースト著, 荘司雅子監訳『人間の発達課題と教育』玉川大学出版部, 1995年, p. 61.)

- ハヴィガーストの説も、そのほかの説においても、そこであげられている発達課題は多岐にわたるもの。しかも、抽象的に表現されている。
 - いずれの説も、人の発達を総合的にとらえようとしている。
 - 人の発達は、心身の諸能力・機能が複雑に関連しあって実現されるものであるから。

7

2. 読書能力の発達段階

8

2. 読書能力の発達段階

■読書能力とは？

- 字のごとく、読書をする能力のこと。
- 読書能力は、当然ながら、人の心身の諸能力・機能の一部を構成するものであるから、読書能力の発達は、人の発達そのものにも大きな影響を与えることになる。

■阪本一郎（1904-1989）

- わが国で読書に関する心理学的研究を牽引した人物

9

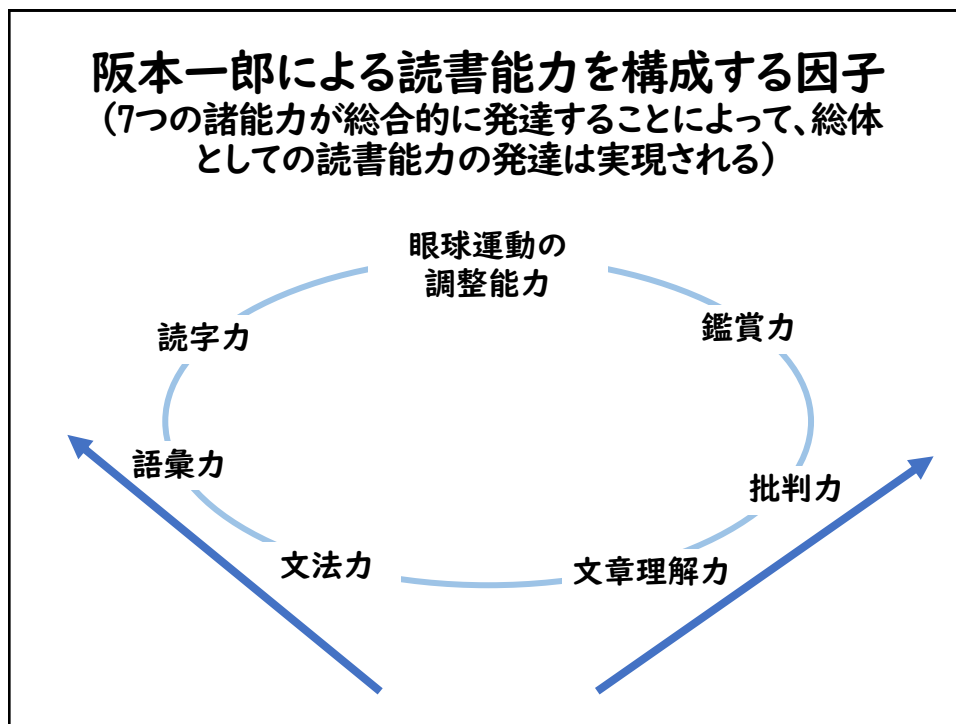
2. 読書能力の発達段階

阪本一郎による読書能力を構成する因子

■読書能力を構成する能力因子

- ① 眼球運動の調整能力
- ② 文字を認知する能力（読字力）
- ③ 語を認知する能力（語彙力）
- ④ 文脈を理解する能力（文法力）
- ⑤ 文章が伝達しようとしている情報を正確にとらえる能力（文章理解力）
- ⑥ 文章から受容したい意味を批判する能力（批判力）
- ⑦ 文章の刺激する情緒的感動を味得する能力（鑑賞力）

10



11

2. 読書能力の発達段階
阪本一郎による読書能力の発達に影響を与える内的な要因と外的な要因

■内的な要因	■外的な要因
① 一般的知能	① 教育的要因 (適切な読書指導がおこなわれているかどうかなど)
② 生理・心理的要因 (視覚、聴覚、発声などの諸器官の発達)	② 環境的要因 (読書環境が好適であるかどうかなど)
③ 興味	➢ 図書館およびそこの児童サービスも含まれる。
④ 経験	
⑤ 性格的要因	

12

2. 読書能力の発達段階

阪本一郎による読書能力の発達段階#1

I 読書入門期

読書レディネスが発達し、読書を開始するまでの時期

- 1 **読書レディネス期** (5歳～6歳半) : お話を聞きたがる。絵本を見てそら読みをする。文字をおぼえはじめる。
- 2 **読書開始期** (小学1学年1学期終わりごろまで) : 本を読みたがる。拾い読みしながら読む。

II 初歩読書期

基礎読書能力が完成するまでの時期

- 1 **独立読書開始期** (小学1学年2学期ごろ) : やさしいものなら独りで読みはじめる。拾い読み。
- 2 **読書習慣形成期** (小学1学年の終わりごろから2学年のはじめごろまで) : 読解語彙が増し、読み返さないでも読みすすめる。
- 3 **基礎読書力熟成期** (小学2学年の半ばごろから3学年の終わりごろまで) : 読書の基礎的スキルが一応の成熟に達する。文が滑らかに読め、課外文章でも読みとおせる。黙読も上達する。

13

2. 読書能力の発達段階

阪本一郎による読書能力の発達段階#2

III 展開読書期

読書技能が成熟し、多読や目的に応じた読書ができるようになる時期

- 1 **読書独立期** (小学3学年の終わりから5学年の半ばごろまで) : 自発的に読書をする。目的をもった読書、読んだものへの批判などができる。
- 2 **読書分化期** (小学5学年の終わりごろから中学2学年のはじめごろまで) : いっそう多読になる。目的に応じて本を選択して読めるようになる。

IV 成熟読書期

成人としての読書の水準に達する時期

- 1 **読書統一期** (中学2学年から高校1学年ごろまで) : 成人の読書材が読めるようになり、読書材の種類、目的に応じた読み方をする。
- 2 **高級読書期** (高校2学年以降) : 特殊な文体や高度の読書材を読みなれ、研究的な読みができるようになる。

14